

# 大樹町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

大樹町は全人口の8割近くが市街地に居住しており、郊外では「ふれあいバス」により生活交通が確保されている状況であるが、市街地では国道を中心に十勝バス広尾線が唯一の運行路線であり、広範な交通空白地域が存在している。

また、市街地の高齢化率は年々高まっており、商業施設、医療施設、役場などの公共施設への自力でのアクセスが難しい町民が増加していることを踏まえ、令和4年12月からは「大樹町地域公共交通計画」に基づき、「市街地循環バス-コミュニティバス“コスモ”」の運行を開始し、市街地内の生活交通の確保を進めている。

## 地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)  
広尾線
- ・コミュニティバス  
コスモ（令和4年12月より運行開始）
- ・ふれあいバス  
浜大樹線、旭浜線、尾田線（大光・尾田）、  
尾田線（拓進・拓北・尾田）、生花線
- ・通院バス  
生花線、尾田線（大光・豊里・大和）、  
尾田線（拓進・拓北・東和・下大樹）

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- 目標① 市街地循環バスの利用者数を2,500人以上とする。
- 目標② 市街地循環バスの収支率を5.1%以上とする。
- 目標③ 市街地循環バスへの公的資金投入額を4,605千円/年以内とする。

## 協議会開催状況

令和3年度以前の開催状況については割愛		
令和4年05月09日	第1回	令和4年度事業計画案・予算案
令和4年06月20日	第2回	本格運行計画の協議等
令和5年05月08日	第1回	令和5年度事業計画案・予算案
令和5年06月21日	第2回	フィーダー申請の協議
令和6年01月10日	第3回	事業評価に係る協議
令和6年02月16日	第4回	大樹町地域公共交通計画一部改定、コミバスルート及びダイヤ変更、フィーダー計画変更協議
令和6年06月24日	第1回	令和6年度事業計画案・予算案、フィーダー申請の協議
令和7年01月08日	第2回	事業評価に係る協議

## 令和6年度事業概要

運行系統名：市街地循環バス  
運行区間：コスモール大樹～役場前～コスモール大樹  
運行回数：4回/日、564回/年（実績）  
運賃：100円/回

# 令和6年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

### ■本格運行までのプロセス

- ・平成29年度 SIP事業として実証運行を実施
- ・令和元年度 SIP事業としてルート変更による実証運行を実施
- ・令和2年度 調査事業の一環で実証運行を実施
- ・令和3年度 単独事業として実証運行を実施
- ・令和4年度 12月より本格運行として運行開始

### ■令和6年度実施内容

#### ●社会福祉協議会との継続連携

- ・社会福祉協議会で開催している、高齢者の体操教室である「ふまねっと」の参加者は、これまで社会福祉協議会の送迎により参加

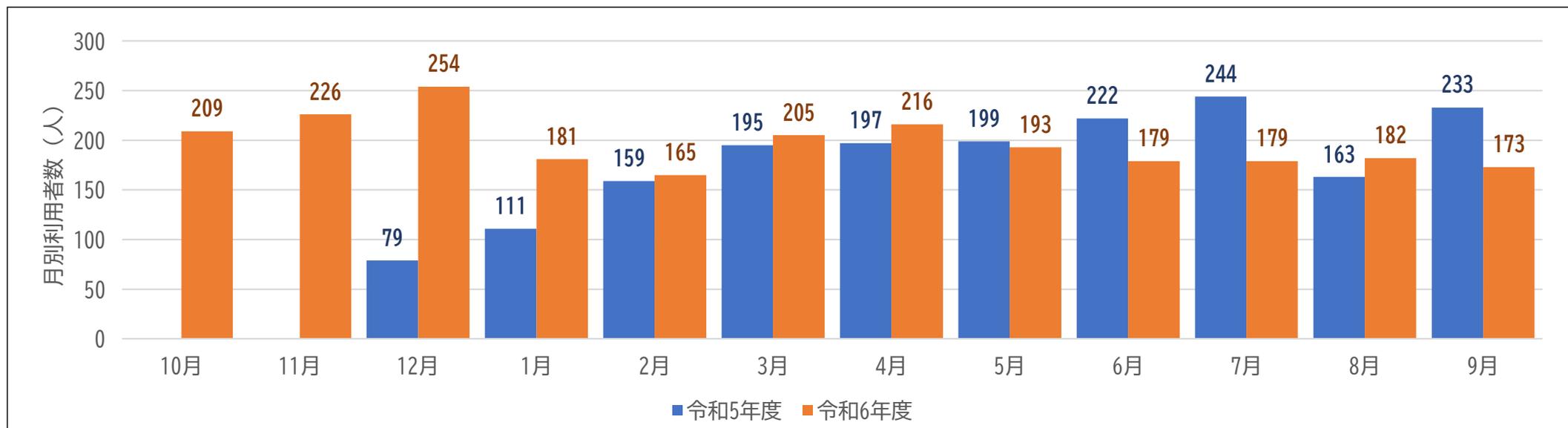
#### ●コスモ運行内容の周知

- ・コスモの運行内容について、周知用チラシを作成、全戸に配布し利用促進に努めている

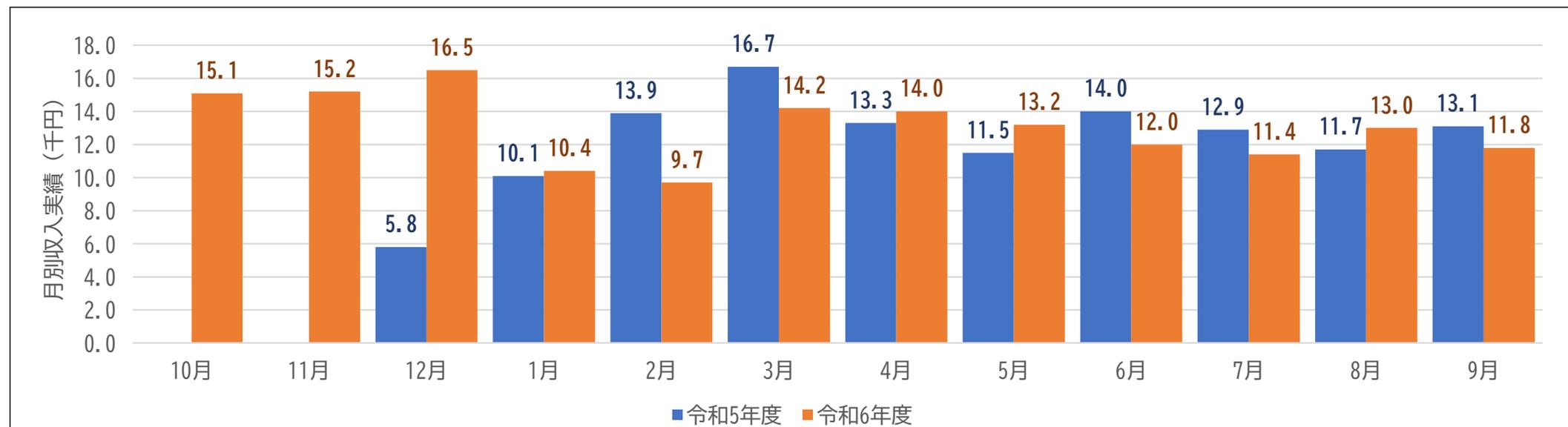
## 2) 運行系統



### 3) 利用実績（日当たり利用者数：令和5年度14.9人/日→令和6年度16.8人/日）



### 4) 収入実績（現金：15.65万円、回数券：9.1万円、計24.75万円（令和5年度：19.70万円））



## 5) 事業実施の適切性

○市街地循環バス-コミュニティバス「コスモ」：計画通りに適切に実施されている。

## 6) 目標・効果達成状況

目標① 市街地循環バスの利用者数を2,500人以上とする。  
実績：2,362人（前年度1,802人（10カ月の運行実績））  
評価：目標値には達しなかったが、前年度と比較し、日当たり利用者数は増加しており、社会福祉協議会との連携により着実に利用者数は確保されているものの、一般利用者の利用が想定を下回った。今後は、一般利用者の獲得に向け、さらなる利用促進策を実施を行う。

目標② 市街地循環バスの収支率を5.1%以上とする。  
実績：4.3%（前年度3.6%）  
評価：目標①及び目標③が目標値に届かなかったことから収支率の目標は達成できなかったが、前年度と比較すると収支率は改善された。  
今後も継続的に利用促進を行い、目標①を着実に達成できるよう努力する一方で、交通事業者と継続的なコミュニケーションを図り、持続可能性について、交通事業者と町が一体となって協議を進める。

目標③ 市街地循環バスへの公的資金投入額を4,605千円/年以内とする。  
実績：5,501千円/年（前年度5,205千円/年）  
評価：運行業務に係る委託料単価の増額と物価高騰による燃料費の高騰等により、当初想定よりも経費がかかる結果となった。今後も継続的に交通事業者とのコミュニケーションを図りながら、持続可能性の確保を図っていく。

## 7) 事業の今後の改善点

- ・今後さらに利用者を増加させていくためには、より周知活動に力を入れることも重要であり、今年度に配布を行った市街地循環バス-コミュニティバス「コスモ」の路線図・時刻表を掲載したチラシ配布に加え、市街地循環バス-コミュニティバス「コスモ」や十勝バス広尾線なども含めたバスマップの作成を進める。
- ・ふまねっと開催時は、コスモ（現在の車両サイズ）だけでは輸送しきれない状況が発生していることから、現車両よりも乗車定員数の多い車両を導入することとしている。

## 8) 地方運輸局等における二次評価結果

（令和7年度分と併せて評価）